

# 「被災地での積極的な組織づくりでくらしの再建や地域づくりに貢献します」



きくち やすし  
いわて生協 専務理事 菊地 靖氏

東日本大震災の発生から約1カ月が経過した4月上旬になっても、岩手県内の避難所には、なお5万人近くの方が避難していた。未曾有の被害を受けた被災地の状況と、復興支援のため、今後生協に求められる取り組みについて、いわて生協災害対策本部長として陣頭指揮を執る、専務理事の菊地靖氏に伺った。

（このインタビューは、4月5日に実施しました）

## 被災地のニーズは刻々と変化しており、適切な物資を適切なタイミングで支援することが重要

—被災地で生活しておられる方たちの現状について、専務はどのように認識しておられますか。

大震災が発生して3週間を過ぎたのですが、岩手県では4万9,000人が避難所に入り、配給などの支援を受けています（4月5日時点）。その他、被災しながらも自宅が残ったので、食料や生活物資の配給を受けながら、そこで生活している人も多くいます。これまでの災害の例では、1～2週間たつと避難者の人数は減っていくのですが、いまだに減少する兆しが見られず、今までの震災とは随分違うなと思います。

富士良市災害対策本部事務局長と共に、沿岸被災地の各自治体災害対策本部を訪問し、要望を聞いた時に分かったことですが、「避難所にいる人たちは減ってきましたか？」と関係者に聞くと、「出ていく人もいますが、新たに入ってくる人もいて、逆に人数が増えている避難所もあります」という答えが返ってきました。

その理由は、家の損傷は軽微でも電気が通じず、交通が遮断され食料や生活用品の購入も困難で生活できなくなった方々が避難所に入ったり、朝晩の配給を受けに来るケースが増えているからです。このように、いわゆる岩手県沿岸部の商店街やスーパーマーケット

などで形成されていた街が壊滅状態に陥って、水、ガス、電気だけでなく、生活に必要な全てのライフラインが破壊されているのです。

そしてまだ、がれきは全く片付かない状態です。膨大ながれきの山を見ると、撤去のめどがいつ立つのか、見当もつきません。今は自衛隊が片付けをしていますが、福島県や宮城県の被害も大きいことから、自衛隊の活動はあと1カ月くらいで南に移ってしまうとも聞きます。そうすると、地元の負担が相当大きくなる懸念があります。

仮に今ボランティアが入ったとしても、電柱や丸太、車の残骸などを人の手で片付けられる状況ではありません。がれきが片付けられて道路が通り、家の中の片付けとか引越したとかという状況になれば、ボランティアの出番になりますが、まだ全然そこまでいっていない段階です。

—それでも、被災した自治体では、すでに仮設住宅の建設や雇用促進住宅への入居が始まっていると伺いましたが。

確かに、仮設住宅の建設と雇用促進住宅への入居が始まりました。しかし、必要数には、まだ全く足りていません。18,000戸の住宅が必要といわれていますが、めどが立ったのは数百戸という状態で、まだ着工すらできていない自治体もあります。堤防が壊れたままでは、被災地をならしてそこに仮設住宅を建てるわけにはいきません。高台に住宅を建てるには平地が少なく、土地を確保するのが難しいのです。こんな状況では仮設住宅に入れるまでの時間は相当長くなります。

また、各自治体は小さな避難所を次第に閉鎖して、統合を始めていますが、避難所生活は長期化を予測しなければならず、今後の支援も相当長期間にわたって必要になると思います。

避難所のニーズは日々変わっていきますから、ニーズに合った適切な支援が必要になります。例えば、被災直後は水と米があり、ご飯が食べられることで満足されても、毎日白米ばかりでは味気ないので、おかずの缶詰や野菜、調味料、果物などが求められるようになります。こういった被災者のニーズに応える配慮が必要になってくるわけです。

2つ目に考えられることは、仮設住宅に移る時に必要な最低限の生活用品の支援です。これまでジャージや1～2枚の服で過ごせても、住宅に移ればもう少し肌着や洋服の種類が必要になります。洋服ダンスなどの収納用具も必要です。被災者は津波で何もかも流され、何も持たずに避難した状態から新生活をスタートするので、寝具と食器や鍋釜などをそろえる生活再建への支援が必要になります。

転居に付随する引越しのトラックでの支援も必要になります。この場合、引越し荷物は少ないとはいっても、冷蔵庫や洗濯機などの必要最低限の生活物資とそれらの搬送を支援するニーズも出てくるでしょう。また、沿岸自治体の災害対策本部からは、傘や爪切り、台所用品、洗剤などの生活必需品を世帯ごとにセットで届けてほしいという要望がありました。同種の支援物資をまとめて大量に送るとそれを分ける作業で負担がかかるので、支援物資の届け方も現地の対策本部にプラスになるかマイナスになるかよく見極めなければなりません。

毛布と米や水などの支援物資は潤沢で、集積場所が満杯なので、これらを移動しないと新しい支援物資を受け入れられないという避難所もあります。したがって、地域の対策本

部とよく話し合って適切な物資を適切なタイミングで支援することが重要になります。

## 生協の班づくりでできるつながりで 新たな「地域づくり」に貢献

—被災した方々が仮設住宅で生活をするようになると、ある程度の期間、そこで暮らしていくための支援が必要になってきますね。

そうなのです。そこで3つ目の課題として、仮設住宅に移ってからの、その地域での暮らしを再建するための、いわば地域づくりへの支援が必要になってきます。そこで役立っていくのが生協の共同購入の班づくりです。同じ所に避難している近所同士の方でも、仮設住宅は抽選で入るのでそれまで住んでいた地域のつながりがバラバラになります。仮設住宅に住む隣人はこれまでの隣人ではないからです。したがって、新しい地域での新たなつながり、「協同」づくりが必要になります。

そこには、われわれ生協が地域づくりに貢献できることがたくさんあると思います。共同購入の班を新たにつくり直すことで、隣近所に新しいつながりが生まれます。共同購入事業を個配ではなく、むしろ班づくりとして取り組むことで新しい地域のつながりをつくっていく。生協の共同購入を利用いただき、班を通じてつながりを強めていくことで地域づくりを応援できると思います。そのことに当面は全力を注ぎたいと思っています。

とりわけ、いわて生協の組合員活動で重要なことは、津波で被災した沿岸部の組合員さんへの支援です。内陸部の組合員さんも地震の被害を受けている方はいますが、沿岸部に比べれば早く通常の生活に向かっているので、組合員活動も計画に沿って進むと思います。震災直後には内陸部の組合員さんから、おにぎりを作って避難所に届けることを提案されました。これがニュースで流れると手伝いに多くの組合員さんがボランティアで駆け付け、3日間、毎日3,000個のおにぎりの炊き出し支援をしました。

3月28日からは共同購入のチラシの配布を再開し、沿岸部の組合員さんの安否確認を始めました。しかし、津波で家を失った組合員さんは避難所に避難していると思われませんが、多くの方と連絡が取れていません。現在も安否確認の努力が続けられています。

したがって、少なくとも今年1年の内陸部の組合員活動は、沿岸部の組合員さんと交流して沿岸の生協組織をつくり直す支援をすることだと思います。内陸部の組合員の皆さんには、沿岸部の組合員活動をなんとか再建したいという強い思いがありますから、力を発揮していただけたらと思います。

—いわて生協の地域への貢献を、全国の生協の仲間たちが後押しすることもできるのではないのでしょうか。

そうですね。いわて生協は、事業や組合員活動を通じて活発な生協づくりをすることで、地域の暮らしに役立ち、地域づくりに貢献できると思っています。また、全国の生協の支援を受けて生協の事業の再建を進めれば、避難所の支援、仮設住宅への移転に必要な物資、移動手段的支援を強力に行なうことができると思います。

全国の生協の方々も、何かお手伝いできないかという思いは相当もっておられます。そ

れに対していわて生協は、被災者のニーズに関する情報を発信していくことが重要になると思います。

復興へ向けてのそれぞれの場面で必要なことは異なっていますので、そのことがきちんといわて生協から発信できれば、全国の生協に今求められていることが正確に、スピーディーに伝わり、それに見合った支援ができる生協は必ずあると思います。したがって、必要な情報、被災地のニーズに基づいた要請を、正確に発信していく取り組みがいわて生協の役割だと考えています。

この間の全国の生協の支援に深く感謝いたします。今後も長い復興の取り組みになります。引き続き全国の皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

## CO-OP TOPICS

マリンコープDORA行き臨時無料お買い物バスは、5月も運行します。

更新日:04/30

このたびの東日本大震災により被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。

被災地でのお買い物支援として実施しているマリンコープDORA行き臨時無料お買い物バスは、4月いっぱい運行の予定でしたが、多くの方のご利用があり、喜ばれていますので、5月も継続して運行いたします。お買い物にお困りのご親戚やお知り合いにぜひお知らせください。

### 「津軽石～磯鷲～八木沢経由」

#### マリンコープDORA行きお買い物バス

<運行曜日> 水・金・日の週3回

<運行回数> 1日4便

●[運行ルート・時刻表は、こちらをクリック!](#)

### 「山田高校～山田南小学校経由」

#### マリンコープDORA行きお買い物バス

<運行曜日> 木曜日

<運行回数> 1日2便

●[運行ルート・時刻表は、こちらをクリック!](#)

いわて生協では、津波により、買い物弱者が多く発生している宮古市内のエリアを対象に、現在、無料お買い物バスを運行している（資料出典：いわて生協ホームページ。なお、マリンコープDORAについては、本誌の特集3を参照）。

